報道関係者各位

Smart and Human 摂南大学

摂南大学 広報事務局

【取材調整可能・有識者(大学教員)のご紹介】

“2024年は約72万人” 9年連続過去最低を更新し続ける日本の出生数

2025年4月・10月施行 育児・介護休業法改正で何が変わる？「働きながら、子を産み育てやすい環境づくり」

摂南大学 看護学部 看護学科 佐久間 夕美子（さくま ゆみこ）教授

摂南大学（学長:久保 康之）では、9学部17学科にわたる専門分野を持つ教員への取材を受け付けています。今回は、**摂南大学看護学部 看護学科佐久間 夕美子教授**をご紹介します。

日本の出生数は低下の一途をたどっています。近年のデータでは、**約81.1万人（2021年）→約77.7万人（2022年）→約72.7万人（2023年）→約70万人（2024年）と、それぞれ2万人以上減少**※1しています。一方、平均寿命は一貫して伸長傾向※2にあり、労働力の減少、医療・介護費用の増加、地域社会の衰退など多くの課題を抱える「少子高齢化社会」に直面しています。

国は課題解決に向けてさまざまな取り組みをしており、その一つに**育児・介護休業法の改正**があります。2025年4月から段階的に施行され、**男女とも仕事と育児・介護を両立できるように、育児期の柔軟な働き方を実現するための措置の拡充や、介護離職防止のための雇用環境整備、個別周知・意向確認の義務化などの改正**を行っています。

今回ご紹介する佐久間教授は、海外に在住する日本人の母親の思い、ヨーガが働く女性や高齢者の健康に与える影響、妊娠期の看護師への遠隔支援などの研究に取り組んでいます。**さまざまなライフステージにおける女性の健康に関わる知見と、時代と共に移り変わってきた、子育てや介護の今**についてわかりやすく解説します。ご取材希望の方は下記広報事務局までご連絡ください。

※1：厚生労働省 人口動態調査 https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/81-1a.html
厚生労働省 人口動態統計速報（令和６年11月分） https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/s2024/11.html
※2：厚生労働省 我が国の人口について https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_21481.html

◆プロフィール

佐久間 夕美子教授

所属 ：看護学部 看護学科
職位 ：教授
学位・資格 ：教育学修士(千葉大学) 看護学博士（東京医科歯科大学）
研究分野 ：ライフサイエンス／基礎看護学

◆お話しできること

・育児・介護休業法の改正ポイント：「小1の壁」対策や男性の育休取得促進

2024年5月に育児・介護休業法の改正法が成立し、2025年4月と10月に段階的に施行されます。育児や介護のために仕事を辞めざるを得ない現象は、今なお続いています。**今回の改正では、「小1の壁」として問題視されている、子の看護休暇の対象範囲が小学3年生まで拡大**されました。育児休業取得状況の公表義務の対象企業の拡大、テレワークの選択肢が追加など、柔軟な働き方を実現するための措置がなされています。この改正により、育児や介護の環境にどのような変化をもたらすのか。現場の現状を交えて解説します。

・多忙な環境で子育てはできる？ 看護職や介護職の労働環境と人間関係

少子高齢化社会において、看護職や介護職はますます必要とされていますが、多忙な労働環境により離職率が高い職業でもあります。そのような環境で、妊娠、出産、育児時期を過ごすとき、心身の健康や就業継続の意思はどのように変化していくのでしょうか。**看護現場での支援の現状や、グループホームにおける介護職者と訪問看護師との関係性など職場の人間関係がもたらす影響**について解説します。

・ガムを噛むと作業が進む！ 咀嚼が心身に与える影響

近年、「クチャクチャ食べる子ども」が増えており、成人後には口腔機能低下症など命を危険に晒す可能性が指摘されています。この現象は、柔らかい食べ物の普及やスマートフォン、タブレットの長時間使用による姿勢の悪化など、ライフスタイルの変化が影響しています。よく噛むことは、心の安定に欠かせない脳内物質（セロトニン）の分泌が促進され、脳が活性化されることが分かっています。**ガム咀嚼がストレスや精神作業による疲労にどのような影響を与えるか**についてお話しします。

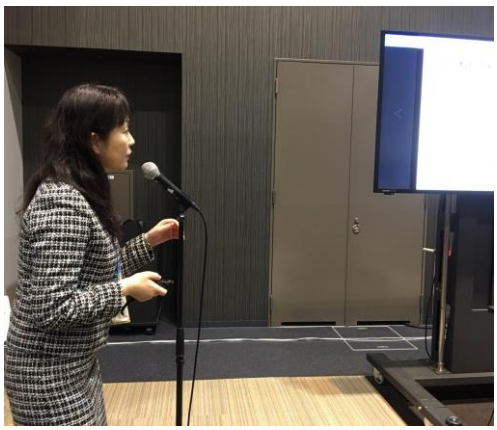
報道関係者各位

Smart and Human 摂南大学

摂南大学 広報事務局

さまざまなライフステージにおける女性の健康を探求

グローバルな環境における母親の育児支援



インドネシア・ジャカルタに居住する日本人の母親における現地生活と育児に関する研究では、海外に滞在し、子どもを育てることの課題や困難感、支援ニーズの違いを明らかにしています。滞在3年以内の母親から10年以上の長期滞在者まで幅広く調査し、異文化環境における育児の実態と支援策について探求しています。

また、妊娠期から出産期の女性を対象としたセルフモニタリングと遠隔支援の介入研究なども行い、子育て世代の現状と今後の支援課題について国際会議で発表しています。

女性の就業継続と健康支援の実践

女性のライフステージに応じた就業継続と健康支援の研究を幅広く展開しています。妊娠中の女性看護師を対象とした出産後の就業継続意志に影響する要因調査や、妊娠初期・中期・後期における看護師の心身の健康、妊娠・出産期の看護師が働き続けられるための「遠隔支援プログラム」の開発にも取り組んでいます。

育児中はどうしても母親の栄養が偏り、睡眠時間は足りずに疲労が蓄積します。子育てだけでなく、在宅介護をされている方なども同様に、社会的な制度を利用できている人ほど心身の健康が保たれていることがわかっています。看護職に関して言えば、現在では多くの病院で妊娠・育児期のサポートや復職研修などの支援制度が設けられており、多忙な医療現場で就業を継続するための対策がとられています。まずは“制度を知ること”と、“制度を活用するための環境を整えること” が大変重要です。

また、女性の健康支援として、デスクワークに従事する女性のためのヨーガプログラムや高齢女性向けのチェア・ヨーガの開発と効果検証を行っています。さらに、認知症高齢者グループホームにおける看護と介護の協働に関する研究も進めています。職場における人間関係の改善は、技術向上だけでなく職場の環境そのものを大きく改善します。このように、多職種連携による女性の健康支援体制の構築にも取り組んでいます。

本件に関わる内容を幅広くお話し可能です。ご取材希望の方は下記広報事務局までご連絡ください。
※できる限り調整をさせていただきますが、取材のタイミングによってはお受けできない可能性もある旨ご了承ください。

【報道関係者様のお問い合わせ先】
摂南大学広報事務局（アンティル内）　担当：佐藤、水原、藤井
TEL：06-6225-7781　E-MAIL：setsunan_pr@vectorinc.co.jp